

徳本峠～霞沢岳山行報告

【山行日】2017年 9月 3～4日(日～月)

【集 合】岩舟支所 P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 17,800円

【メンバー】CL: 鈴木 石川、岩淵、関、藤原、渡辺

3日: 快晴、島々登山口から島々谷川沿いを歩き、歴史あるクラシックルートに登り徳本峠小屋へ
岩舟支所 P3:00＝安曇支所 P6:00/6:30～二俣 8:30
～岩魚留小屋 11:00/11:40～徳本峠小屋 14:10

上高地に車道が通じた昭和8年以前は、島々谷をさかのぼって徳本峠を越えるのが上高地への登路だった。その歴史あるクラシックルートに登り、徳本峠小屋に泊り上高地へ下るコースを一度は歩きたいと憧れていたが、なかなかチャンスが訪れなかった。NHKの「日本トレッキング100」という番組をF原さんが見て、「行きたい山アンケート」でリクエストがありようやく実現できた。せっかくなので、日本200名山の霞沢岳も登る欲張りな計画を立てた。島々谷



の安曇支所に車を止め(事前連絡要)、徳本峠入口の大きな標識から左折し、沢沿いに舗装道路を進む。獣害を防ぐためのゲートを抜けて、林道をそのまま進む。途中、右岸から左岸に渡り、林道をのんびりと歩き2時間ほどで二俣に着く。二俣にはトイレや案内板があり、休憩して水分を補給する。二俣から沢は島々谷北沢と南沢に分かれ、徳本峠へは島々谷南沢に行く。登山道に入るとすぐに「三木秀綱公奥方侍女悲運の跡」と彫られた石碑が建っており、この峠道の歴史の古さを感じさせる。釜トンネルが開通する昭和初期まで、上高地へ入る人たちは皆この峠道を利用していた。道は沢に沿って緩

やかに続いており、木の橋で対岸に何回か渡りながら気持ちよく歩ける。I 淵さんも「黒部下ノ廊下も良いけどここも負けなくらい素晴らしいね～」とご機嫌で歩いていた。「徳本峠まで7.1Km」という標識がある中間地点のベンチで休憩し、トマトやナシを食べエネルギーを補給する。さらに沢を渡り返しながら進むと谷幅が狭くなり、廊下状の谷間に栈道が続く「離れ岩」を通過する。本日一番の景色に「ウウ～～～凄い、来て本当に良かったネ！」と喜びの声が上がる。

しばらく歩くと古い石積みが見え、「花木の石灰窯跡」でかつて石灰をここから運ぶため、道が整備されたようだ。しばらく右岸を進み、ワサビ沢の橋、岩魚留橋を渡ると岩魚留小屋に着く。小屋は休業中だが、軒下の濡れ縁を借りてランチタイムとする。モヤシとキャベツたっぷりの味噌ラーメンを作り、ゆっくりとランチを楽しみ、デザートとお茶をいただいたら出発する。ここからは岩魚留沢、中ノ沢、障子川瀬沢といくつもの支沢を越えて、次第にきつくなる斜面を登って行く。やがて本谷を離れて、笹が覆う道をトラバース気味に進み、力水の水場を過ぎるとジグザグの登山道を登るようになる。標高差200mを一気に登ると、ようやく小屋の立つ徳本峠に着く。小屋に入る前に峠に行き、穂高が見えるか確認するがガスが掛かって穂高の雄姿は望めなかつ



た。歴史ある徳本峠小屋は、2010年に増改築されたが旧小屋は併設して保存され、今も使用されていた。小屋で受付を済ませ、使用上の説明を受け2階の部屋に案内される。一人一枚の布団で、ふかふかの布団に女性達は大喜び。しかも足元にはザックを置く棚が付いており、I 渚さんは『今まで泊った



山小屋の中で一番気に入った小屋』とご満悦。着替えが終わったら外のベンチでいつもの宴会が始まる。ビールや酒、ワインなど好きなものを飲みながら会話が弾む。今日歩いてきたコースはとても良かったことや、明日の霞沢岳は登れるか不安だと話していると女性が下山してきた。「何時に出ましたか？」と聞くと、「今朝6時に出て16時ですから、10時間掛かりました」との事。「エ〜そんな大変なの？」と驚いていたので、「大丈夫、朝4時に出て8時30分までに登れなかったら途中で戻るから」と言って安心させる。陽が落ちると寒くなり、部屋に戻って夕食まで休憩する。夕食が済んだら明日

の早い出発に備え、部屋に戻って早めに床に就いた。

4日 快晴、徳本峠からジャンクションピーク、K1経由で霞沢岳をピストンし、穂高連峰の絶景を堪能し、徳本峠から上高地へ下る。

徳本峠小屋 3:50～ジャンクションピーク 4:55～K1ピーク 7:20/7:30～霞沢岳 8:10/8:30～徳本峠小屋 12:00/12:50～明神 14:10/14:20～上高地 15:00/15:30＝安曇支所 P16:20＝岩舟支所 P20:10

朝3時に起床し、荷物を持って食堂に降り朝食のお弁当を食べる。必要ない荷物はスタッフバックに入れ、小屋の玄関の棚に預けて行く。外に出ると月と星



が見え、天気はまったく心配ないようだ。

ストレッチを済ませて出発し、ヘッドランプの灯りを頼りに歩き始める。すぐに展望台を抜けた後は下りになり、あまりに下るので心配になり地図を出して確認する。地図も下るようになっており、安心して進むと白沢出合からの道と合流する。ここからは樹林帯の道をジグザグに登って行く。暗くて道を見失わないよう慎重に進み、40分くらい登ると空が明るくなってきた。

急坂を登り切ってなだらかになると、南東側の展望が開けジャンクションピークに着く。ジャンクションピーク

と言っても平らな場所で、標識が無ければ全く分からない。丁度日の出の時間なので、休憩してご来光を写真に収める。展望を楽しみひと息入れたら緩やかに下り、小さな沼の横を通り再び登り返す。

登り切ったピークが P2で、小休止し果物や水を飲んで喉を潤す。そこからも樹林帯の道を登り、2つのピークを越え緩やかに下ると左手斜面が崩落しているのが見える。ここから先は急斜面の登りになるが、明るいお花畑の中を登って行く。

この先からは陰しが増し、トラバース気味の斜面を越えるとロープのある一直線の登りになる。足元に気を付けて一步一步慎重に登り、登り切ると K1ピークに出る。遮るものが無い360度の大大パノラマが得られ、穂高岳や焼岳、富士山等の眺望を楽しむ。ここから一旦岩場を下り、稜線を小さく登り返すとK2ピークがあり、さらに少し先を登った所が霞沢岳山頂だ。山頂で登頂の喜びを分かち合い、笑顔で固い握手し記念写真を撮る。



ナシや菓子を食べながら眺望を楽しみ、地図を出して山座同定する。

穂高連峰の眺望がすばらしく、ジャンダルムやロバノミもはっきりと同定でき皆満足そう。徳ちゃんやF原さんも、「登れると思わなかったが、登れてすごく嬉しい」と喜んでた。山頂からの眺望を楽しんだら、



来た道に戻り下山する。下山も結構きつく、登りの人とのすれ違いに神経を使う。でも登頂の達成感でルンルン気分を下るが、P2からジャンクションピークまでは登り返しがきつく、皆さん疲れた様子。

やっと徳本峠小屋に戻り、預けた荷物をもらいザックに詰替える。昼食を小屋にオーダーし、温かいうどんとお蕎麦を美味しくいただき、小屋の方にお礼を言って下山する。峠で穂高の雄姿をもう一度まぶたに焼き付け、明神へ向かって降りて行く。歩き易い登山道をジグザグに降りて行き、沢の渡渉地点は慎重に渡し軽快に降りて行く。沢に沿った樹林帯の一本道を下ると、登山道は林道に変わり白沢

の橋を渡って徳本峠入口の標識がある上高地街道へ出る。左へ進み橋を渡って少し行くと明神に着く。

これまでの静けさが嘘のように、大勢の人が休んでおり賑わっていた。トイレを済ませ、冷たい飲み物で喉を潤し上高地に向かう。平日にもかかわらず大勢の人が行き交い、途中田中陽希さんとすれ違い挨拶を交わした。上高地に着き河童橋で記念写真を撮り、バスターミナルの売店でお土産を買いソフトクリームを食べる。タクシーの予約時間になり、乗場に行くがタクシーが来てない。携帯で連絡するとすぐに来て、2台に分乗し安曇支所へ向かい車を乗り換え帰路につく。途中のセブンでモモやリンゴのお土産をゲットし、高速道路の渋滞も無く順調に走り予定よりも早く岩舟支所へ帰着出来た。

